

がん治療関連心不全および静脈血栓塞栓症患者における抗がん薬の使用実態と予後に関する検討 へのご協力をお願い

昭和大学では、日本循環器学会（以下本学会）が実施する全国的に循環器診療の実態調査を展開して診療実態を具体的な数で把握するためのデータベースを利用して「がん治療関連心不全および静脈血栓塞栓症患者における抗がん薬の使用実態と予後に関する研究」を行っています。

[対象となる方]

本学会に協力する全国の循環器科または心臓外科を標榜する施設に2012年4月1日から2021年3月31日の期間心不全または静脈血栓塞栓症にて入院された患者さんです。

[研究概要]

近年、腫瘍循環器学という新たな領域が確立しています。抗がん薬によるがん治療関連心血管病は、がん治療における重大な合併症であり、がん患者の予後に影響します。そのため、化学療法を受ける患者さんにとっての最適な管理戦略は、日常の臨床診療において非常に有益であり、がん患者のケアと予後を改善するためには、抗がん薬によるがん治療関連心不全およびVTEの現在の実際の臨床転帰に関するデータが重要です。しかしながら、心血管疾患の全国的レジストリにおいて抗がん薬によるがん治療関連心不全および静脈血栓塞栓症の診療実態に関するデータベースを用いた疫学研究はこれまで存在しません。そこで、本研究では、JROAD-DPCデータを用いて、抗がん薬によるがん治療関連心不全と静脈血栓塞栓症患者さんの臨床的特徴と転帰を化学療法歴のない対応する集団と比較して評価するため本研究を計画しました。

[研究期間] 昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会にて審査後、委員会から発行される結果通知書の承認日より、研究機関の長の研究実施許可を得てから2024年9月30日まで

[研究課題名]

がん治療関連心不全および静脈血栓塞栓症患者における抗がん薬の使用実態と予後に関する研究

[研究責任者]

昭和大学薬学部 所属：病院薬剤学講座 准教授 須永 登美子

[研究の目的]

本研究は、JROAD-DPCデータを用いて、抗がん薬によるがん治療関連心不全または静脈血栓塞栓症患者の臨床的特徴と転帰を化学療法歴のない対応する集団と比較して評価することを目的とします。

[利用する診療情報]

参加施設から日本循環器学会循環器疾患診療実態調査へ提供された以下の情報

生年月日、性別、体重、収縮期血圧、発症年月日、入院年月日、病名、併存症名、合併症名、がん種、入院前NYHA心機能分類、ADLスコア、がんの初発再発、UICC病期分類、がんのStage分類、化学療法の有無、チャールソンスコア、院内死亡の有無、在院日数、再入院の有無、使用された薬剤の有無（経口抗凝固薬、ヘパリン類、ACE阻害薬またはARBまたはARNI、MRA、遮断薬、SGLT2阻害薬、ループ利尿薬、サイアザイド系利尿薬、パソプレシン受容体拮抗薬、免疫チェックポイント阻害薬、抗HER2治療薬、VEGF阻害薬、チロシンキナーゼ阻害薬、MEK阻害薬、フルオロウラシル系薬、アントラサイクリン系薬、タキサン系薬、アルキル化剤、

アロマターゼ阻害薬、抗エストロゲン薬)。

[個人情報の取り扱い]

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

[問合せ先]

研究責任者 所属：病院薬剤学講座 須永 登美子

TEL：03(3787)1151（内線：278）